

わきやあまみ③ 自然ものしり双六

すごろく



私たちは奄美諸島に住んでいます。このうち喜界島、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島、沖永良部島、与論島の8つの島に人が住んでいます。それぞれの島に、それぞれの島特有の自然の営みがあって、私たちもそこで生かされています。私たちの奄美の島々の自然をもっと知って、より良くするために何ができるかいっしょに考えよう。

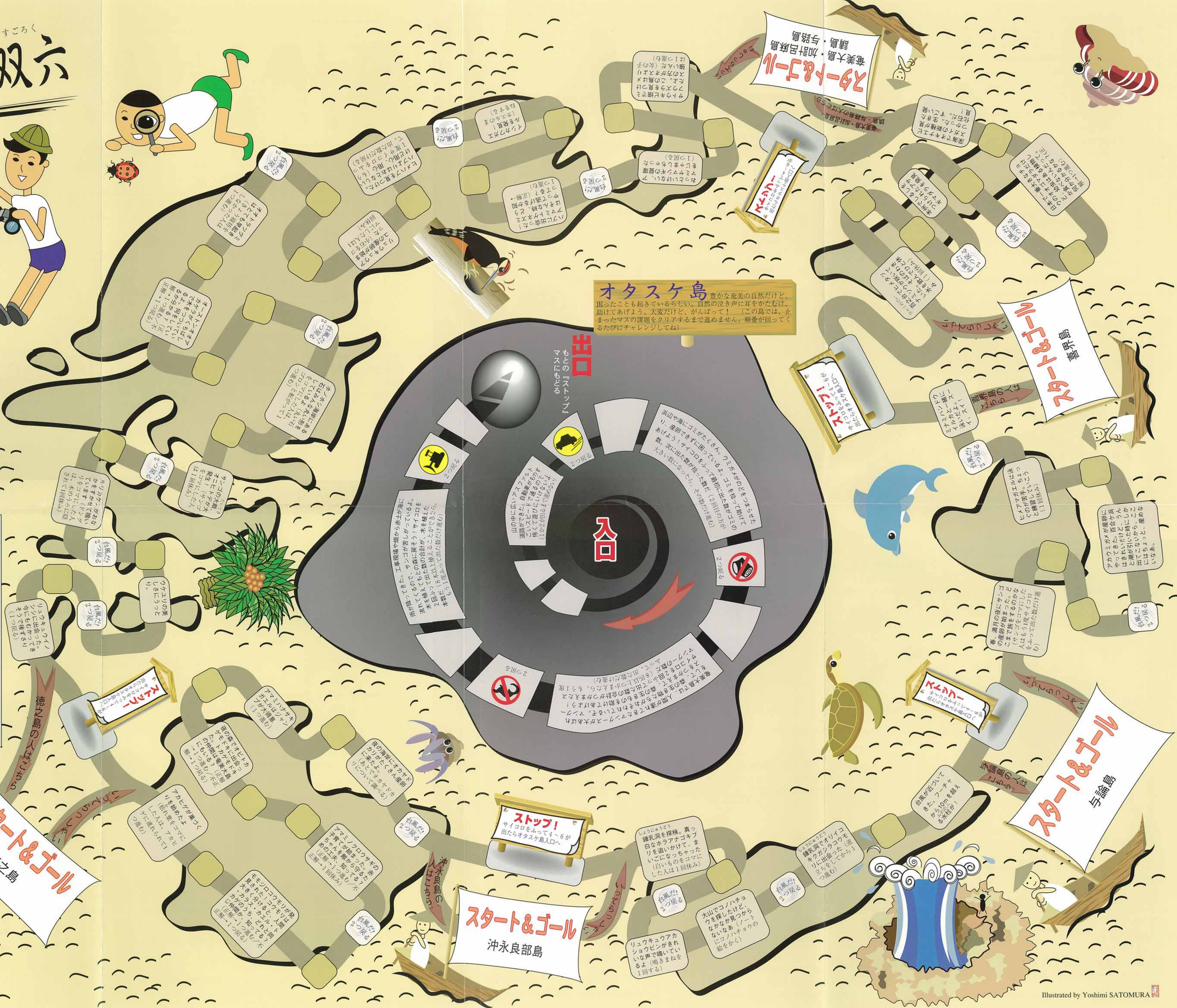
奄美自然体験推進活動協議会 2004年3月

はじめに

サイコロと自分のコマを用意しよう。コマは石、サンゴ、葉っぱ、どんぐりなど「自然の産物」を拾ってきてね。サイコロがないときは、6角のえんぴつつきの各面に数字を書いて、サイコロをつくりませう。

あそび方

- 5カ所にある「スタート&ゴール」のどこからでも始められます。自分の住んでいる島からスタートしよう。
- 順番にサイコロを振って、出た数の目だけ右方向に進みます。ついた場所の問題に答えてください。(うしろに答えや生きものたちのおもしろ情報がついているよ！)
- 「ストップ!」では、どんな数が出ても必ずそこで止まって下さい。次の順が回ってきたらサイコロをふって、4か5か6が出たら「オタスケ島」の入口に行かなければなりません。次の順が回ってきたら、オタスケ島入口でサイコロをふります。
- 「オタスケ島」出口まで来たら、オタスケ島に来る前の「ストップ!」まで戻ります。
- 奄美の島々を1周して、最初の「スタート&ゴール」に戻ってきたら終わり。
- 最初にゴールした人が1番だけど、オタスケ島を4回まわった人は奄美の自然を元に戻すためにいちばん頑張ってくれた人だから、1番の人よりよいらしい。



オタスケ島 豊かな奄美の自然だけど、困ったことも起きているらしい。自然の泣き声に耳をかたむけ、助けてあげよう。大変だけど、がんばって! (この島では、止まったマスの課題をクリアするまで進めません。順番が回ってくるたびにチャレンジしてね)

奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島

アマミトゲネズミ はハブに近づき、襲いかかってきたところを横や後ろ、真上にジャンプすることで攻撃をよけて逃げます。

イシカワガエル は日本で一番美しいカエルと言われています。夜の森の沢すじから「ビョウー、ビョウー」ときれいな声が聞こえてきます。

ルリカケス はドングリが大好物。秋にドングリをかくすのは、食物の少ない冬にそなえるためと考えられています。

ミフウズラ は卵を温めることから子育てまで、すべてオスがします。メスは卵を産むだけで、あとは別のオスとつがいになります。

子育ては
お父さんの仕事

喜界島にしかない絶滅のおそれがある**ヒメタツナミソウ**は、石灰岩の岩場でわき水のそばのような湿った場所を好みます。

オオゴマダラの幼虫は、ホウライカガミの葉っぱだけを食べて育つので、奄美ではこの植物がある喜界島と与論島だけに住んでいます。

喜界島

オオトラツグミ は日の出前から「キョロンツィー」とさえずります。奄美の鳥の中では一番早起きです。

アマミヤマシギ は夜行性なので、夜中にミミズなど土の中のえさを探しています。昼間は茂みや林の中で休んでいます。

ウケユリ は梅雨明けごろに大きな白い花を咲かせます。また香りのとても強い花です。

日本一の**スズメリムツリ**

ヒメハブ は動きのゆっくりしたヘビですが、ハブと同じく毒を持っているので注意が必要です。

リュウキュウアユ は冬に産卵します。細かい砂利のたまった川底の小石に卵を産みつけます。

リュウキュウイノシシ は、本土で見られるイノシシよりもかなり小型のイノシシですが、体重は20~70キロほどあります。

オーストンオオアカゲラ はキツツキの仲間です。キツツキが木をつつくのは、えさ探しや巣穴作りのほかに、なわばりをアピールする目的もあります。

日本で渡りをするチョウは**アサギマダラ**だけです。春は南から北へ、秋には南へと日本列島を行き来しています。長い時は1000キロを超える旅をすることもあります。

数百メートルの深い海にいる**オキナエビスガイ**の仲間は、4~5億年前から地球上にいる、最も古い巻き貝のひとつです。

ウミガメの仲間は、卵を産む場所を前もって下見すると言われています。奄美では6~7月ごろの夜中に、明かりのないきれいな砂浜に上がってきて、穴をほって100個ほどの卵を産みます。

徳之島

コウモリは子供を母乳で育てる人間と同じほ乳類です。**モモシロコウモリ**は徳之島が最も南の生息地です。

アカヒゲ は巣作りをほとんどメスだけがします。オスはなわばりを守るためにさえずっています。

トカゲモドキはヤモリの仲間です。沖縄島とそのまわりの島々には**オビトカゲモドキ**によく似た5亜種がありますが、奄美では徳之島だけです。

アマミハナサキガエル はスマートな中型のカエルで、ひとたびで2~3メートルは軽く飛びます。

普段は陸で生活する**オカヤドカリ**は、梅雨が明けた夏の大潮の夜、一斉に海岸まで下りてきて、幼生を海に放します。

アマミノクロウサギ は自分の巣とは別の巣穴で子供を育てます。その入り口は母ウサギが母乳をあげに来る時以外は土でふさがれています。

ホノホシ海岸のように丸い小石でできた海岸を転石海岸と言います。波が来るたびに石が動いて、不思議な音を出します。

サンゴはポリプという小さな動物が集まってできています。**オニヒトデ**はこのポリプを食べるので、サンゴは死んでしまいます。

多くの**サンゴ**は4~8月の夜にいっせいに産卵します。卵はその後幼生になって海を移動し、やがて岩などに定着します。

春ごろ、奄美の海では多くの**イルカ**やクジラの仲間を見ることができます。子供を連れた群れに出会うこともあります。

与論島

水に落ちた**ヒメアママガエル**は、体をふくらませて浮いています。日本で一番小さなカエルで、海岸から山までいろんなところに住んでいます。

沖永良部島

ホラアナゴキブリ は光がほとんど入らない洞くつに住んでいるため、目が退化しているので見ることができませんが、代わりに感覚が長く発達しています。

オリコキクガシラコウモリ は洞くつに住み、子育てや冬越しをする時に、数百頭の集団を作ります。

フーチヤ はサンゴ礁が波に削られてできた洞くつで、大きな波が中に入ると、地上に水を吹き上げます。

リュウキュウアカショウビンは「キョロロロロ」ときれいな声で鳴きます。奄美には、東南アジアから産卵と子育てのために渡ってきます。

コノハチョウ は閉じたはねが枯れ葉のようなまようをしています。広げると青とオレンジのとても美しいチョウです。